

文楽 Bunraku News 応援団通信

文楽
応援団通信

第27号

2015. 7. 18



しょうつしあさがおばなし
『生写朝顔話』

文楽応援団ホームページ

<http://bunrakuouendan.web.fc2.com>

文楽応援団ツイッター

<http://twitter.com/#!/bunrakuouendan>

QRコードはこちら

文楽応援団

検索



HP



Twitter

文楽応援団の自己紹介

Issued by Bunraku Ouendan

文楽応援団は文楽の普及・振興を目的とするボランティアのグループです

おもな活動内容は

- ①文楽公演のポスター・ちらしを配布
- ②資料展示室における展示品の解説
- ③観劇のグループに公演のあらすじや見どころ聞きどころを解説
- ④劇場外での普及活動(文楽の楽しみ方などを解説)等々です

この他、文楽に関する学習会や懇親会なども行います

〒542-0073 大阪府中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課 文楽応援団担当

TEL 06 (6212) 5332 (直通) FAX 06 (6212) 1202

『襲名披露公演を終えて……』

懐かしいニユース映像との再会

二代目 吉田玉男



四月大阪、五月東京の襲名披露公演を無事に終える事ができました。師匠の名前を襲名できたという喜びの一方、これからは二代目として芸の真価を厳しく問われていくのだと武者震いのような緊張感も覚えています。

襲名を決意したひとつの理由に、初代玉男の芸の素晴らしさを、その名前とともに後世に伝えたいという思いがありました。襲名に向けて企画されたイベントや、新聞・テレビの報道、大阪公演中の資料展示などを通じ、師匠の舞台写真や映像が数多く展示、掲載され、師匠の芸と人柄を改めて皆様の心に深く刻んでいただけました。

私自身も、その中で実に懐かしい映像に出会うことができました。NHKが『につぼんの芸能』で、「文楽人形遣い 吉田玉男襲名によせて」(Eテレ・三月二十日放送)

を制作して下さいたのですが、担当ディレクターの大場昌平さんが、NHKのアーカイブから私が入門する直前、昭和四十二年のニユース映像を発掘して下さいたのです。その映像は、学生ズボンの上に黒衣を着た私が、朝日座の楽屋で師匠におしぼりを渡したり、草履を揃えているもの。師匠四十八歳の男前ぶりが映し出されています。さらにカメラは、八尾の自宅も収録していました。狭い長屋の居間に、私の両親、私を文楽に誘って下さった吉田玉昇さんらが集っているのです。映像は無音なので、どんな会話をしていたのかはわかりませんが、玉昇さんが、足遣いの説明をしているように感じました。後継者不足に直面していた文楽に中学生が入門すると話題になり、当時、新聞や雑誌の取材を受けたことは覚えていましたが、このニユースの事はすっかり忘れていましたので、NHKの編集室で、この映像を見た時、本当に驚きました。今は亡き師匠、玉昇さん、両親。まさに「二代目玉男」を生み育ててくれた方々が目の前に現れて、襲名を応援してくれているようで、胸に万感の思いが込み上げました。師匠、先輩への敬意と感謝は伝統芸能の根幹です。襲名を前に、その事を改めて実感させてくれた、師匠の天からの計らいだったのかもしれない。

やっぱり文楽はやめられない!

其の二十二

『展示室に立つて十五年』

岡持慶子

文楽劇場開場三十周年、竹本住大夫師文化勲章受章、二代目吉田玉男襲名と、このところ文楽では好事が続き、明るく和やかな春でした。

思えば、先例のない劇場でのボランティア団体「文楽応援団」が発足したのも春でした。当初は、呼び込みで集まったお客様の前で、一人が説明するという形で始まったのですが、何せ四十七名の素人集団、討ち入りどころか胸ドキの足ガクで。二番手に当たった私は来場お礼のご挨拶のあと、「今日は文楽四月公演の初日、私達にとつても初日、初舞台でございます。どうぞ宜しくお願い致します」と頭を下げ拍手を頂戴しました。どうもサクラが混じっていたようです。

私はこの日までにボランティア体験があつてその原点は、戦時中死ぬような目にあつたことでした。一度目は大阪大空襲で火に囲まれて逃げ場がなかったこと。

二度目は学校が焼夷爆弾の直撃を受け、熱風と土埃を浴びて防空壕から飛び出し、火の海の運動場を必死に走って逃げたこと。

三度目は一屯爆弾に震えたことでした。

終戦の日「何かをする為に、生かされたんや」と思い込んでしまったのです。色んなお手伝いをしましたが、将(まさ)か好きな文楽を応援するとは思つてもみませんでした。

以来十五年。高齢になり、身体障害者になつても、私は展示室に立つております。

応援団の活動は、イベント会場でのチラシ配り、学校や集会場での出前解説など拡がっています。文楽劇場展示室来場者は確実に増え、若いお客様も多くなり嬉しい限りです。でも、地元の大阪でさえまだ文楽を見たことがない方がいられるのが現実です。最近よく使われる語「グローバル」。毎年海外公演を続け各国の新聞に絶賛記事が載る文楽は、正にグローバルだと思いませんか。

世界に誇る文楽を伝承すべく芸の研鑽に励み、息の詰まるような舞台を勤められる技芸員さん達を応援したい。文楽を大切に思う心で、一人でも多くの文楽ファンを増やしたいと今日も立つ私です。

「やっぱり文楽はやめられない!」



とうかいどうちゅうひざくりげ
『東海道中膝栗毛』

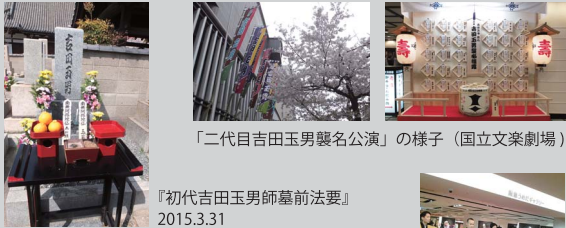
最近の活動風景



展示室での解説風景

「ゆかりの地めぐり（尼崎）」

文楽関係のイベント

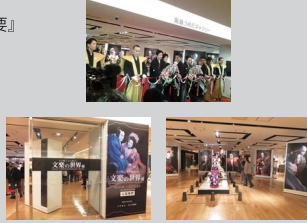


「二代目吉田玉男襲名公演」の様子（国立文楽劇場）

『初代吉田玉男師墓前法要』
2015.3.31



渡邊肇氏
「人間浄瑠璃写真展」（大阪）



うめだギャラリー「文楽の世界展」
2015.7.1～7.13

文楽応援団 東西と一さい



* 3月31日（火）銀山寺で初代吉田玉男師墓前法要が行われました。

* 3月31日（火）生國魂神社、浄瑠璃神社で4月公演成功祈願が行われました。

* 渡邊肇氏「人間浄瑠璃写真展」が開催されました。

【転女成男】

大阪：4月4日（土）～4月12日（日）

於：福壽堂秀信

東京：5月16日（土）～5月24日（日）

於：瑞聖寺

【人間浄瑠璃 映像 + 写真展】

名古屋：5月26日（火）～5月31日（日）

於：中日ギャラリー

* 6月1日（月）吉田蓑紫郎さんが南警察署の一日署長を務められました。

* 7月1日（水）～7月13日（月）うめだギャラリーで「文楽の世界展」が開催されました。

* 応援団 HP 来訪者数 67,903 人、文楽応援団ツイッターのフォロワーが 1,397 人になりました。(2015.7.7 現在)

* 次回公演

東京：9月5日（土）～9月21日（月）

大阪：10月31日（土）～11月23日（月・祝）

※11月12日（木）は休演

HAPPY ENDINGS

Happy endings to love stories in bunraku are few and far between. A rare exception is this summer's *Shōutsushi Asagao Banashi* [Morning Glory Story], in which the lovers are finally reunited, albeit after much suffering. In most traditional plays it is the female who suffers, and frequently dies, for love. *Asagao Banashi* provides another surprise, in that it is a male character who dies to give the heroine her happiness.

Tragic love is standard for bunraku. *Shinjū* “love suicide” plays are the most obvious examples, and remain very popular today. Here the lovers choose to die together since they are prevented, by social or financial problems, from living together. Their choice is not made entirely from despair, however, as contemporary popular beliefs decreed the pair would be reborn together in the next life. Another common form of tragic love in plays is unrequited love, or the love triangle. These cases require self-sacrifice on the part of the rejected or “extra” female. One solution is to go into a convent, like Omitsu in *Nozakimura*, leaving the field free for her rival. Or she

eliminates herself entirely by dying, as Omiwa does in *Imoseyama*, providing her “magic” blood to the hero for a potion to kill his enemy.

Happy endings are reversals of stock love tragedies. The popular play *Tsubosaka Reigenki* employs the rare mechanism of divine intervention. A blind man jumps off a cliff to spare his beloved wife the trouble of caring for him, but when she finds out, in her grief she jumps after him. The Goddess of Mercy appears to resurrect them both, restoring his sight in the process. There is also the odd case of two women sharing their man. In *Futatsu Chōchō Kuruwa Nikki*, tragedy is averted by a practical wife making friends with her husband's lover and suggesting they all live together. Peculiar today, but socially acceptable in 1749 when the play was written.

Faith Bach
Earphone Guide

- 1/ 3 新春公演初日。鏡開き。展示室解説、演目解説など、24日まで。
応援団通信第26号、3,000部発行。
- 1/13 ハドマ幼稚園より解説依頼。33名。担当:安藤。
- 1/25 太政学院大学附属高校教育後援会山川氏より解説依頼。21名。
担当:大野、岡持、畑、安藤。
- 1/31 スタッフ会議。出席:7名。
- 2/13 第1回研修会前日準備。世話人:安藤。
- 2/14 第1回研修会。新春公演総括。新団員紹介。出席47名。
今期スタッフ:荒木、今井、馬越、大野、長、榊田、塩田、関口、中村、目黒、森木、横田、安藤
今期HP委員:榊田、油田(名)、荒木、齋藤、立川、安藤。
応援団通信編集委員:荒木、長、折井、安藤。
担当表作成:木田。発送手伝い:松井。折紙取りまとめ:柴多
写真ハコ:荒木、安藤。
「応援団の活動について」の質疑応答等。
- 2/21 第1回研修会報告書発送事務作業。世話人:安藤。
- 2/28 スタッフ会議。出席:10名。
- 3/ 8 「演目ゆかりの地」まち歩き尼崎篇。廣徳寺、大物、広済寺等。参加14名。
- 3/13 第2回研修会前日準備。世話人:安藤。
- 3/14 第2回研修会。出席:46名。4月公演演目説明、見所解説。担当:藤田。
解説日程調整など。
社会福祉協議会事務所へ、ボウテイ保険加入手続き、69名分申請。
- 3/24 応援団活動写真ハコ制作PartI。担当:荒木、安藤。
第2回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
- 4/ 3 応援団活動写真ハコ制作PartII。担当:荒木、安藤。
- 4/ 4 4月公演初日。応援団登録証伝達式。小ホールにて農端支配人より授与される。
出席:52名。

- 展示室解説、演目説明など26日まで。
「くらし方研究会」より解説依頼。14名。担当:折井、齋藤、杉本。
- 4/11 「大阪あそ歩」より解説依頼19名。担当:岡持、関口、原。
- 4/14 読売新聞より取材。担当:安藤。
- 4/25 「大阪あそ歩」より解説依頼15名。担当:荒木、岡持、折井。
- 5/ 9 スタッフ会議。出席:10名。
- 5/15 第3回研修会前日準備。世話人:安藤。
- 5/16 第3回研修会。出席:39名。
4月公演総括。学習会「何でも質問」ナ-
- 5/24 第3回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
- 5/30 「大阪あそ歩」より解説依頼14名。担当:油田(名)、岡持、折井、杉本。
- 6/ 6 第1回応援団通信第27号編集会議。出席:2名。
- 6/14 「関西大学」より解説依頼30名。担当:油田(名)、岡持、折井、杉本。
- 6/26 第2回応援団通信第27号編集会議。出席:2名。
応援団HP編集会議。出席:3名。
- 6/27 スタッフ会議。出席:10名。
- 7/10 第4回研修会前日準備。世話人:安藤。
- 7/11 第4回研修会。出席:40名。
夏休み公演日程調整、演目説明など。担当:藤田。
学習会「生写朝顔話」
「演目ゆかりの地」まち歩き。参加10名。
- 7/17 第4回研修会報告書発送事務作業。世話人:松井、安藤。
応援団活動写真ハコ制作。担当:荒木、安藤。
- 7/18 夏休み特別公演初日。展示室解説、演目解説など、8月3日まで
応援団通信27号3,000部発行予定。

文楽公演

平成27年10月

地方公演スケジュール

【主催】文楽協会 【後援】文化庁

ユネスコ無形文化遺産、人形浄瑠璃文楽。

演目【昼の部】「解説」『団子売』^{だんごうり} 『心中天網島』^{しんじゅうてんのみじま} 「天満紙屋内の段」 「大和屋の段」 「道行名残の橋づくし」
【夜の部】「解説」『絵本太功記』^{えほんたいこうき} 「夕顔棚の段」 「尼ヶ崎の段」 『日高川入相花王』^{ひだかがわいりあいざくら} 「渡し場の段」

地方公演チケットお問い合わせ先

9月26日(土)	ラプリーホール(大阪府河内長野市)	0721-56-6100	10月 6日(火)	札幌市教育文化会館(北海道札幌市)	011-271-3355
27日(日)	本巢市民文化ホール(岐阜県本巢市)	058-323-5373	9日(金)	石川県立音楽堂(石川県金沢市)	076-232-8632
29日(火)	電力ホール(宮城県仙台市)	022-227-2715	10日(土)	府中の森芸術劇場(東京都府中市)	042-333-9999
10月 2日(金)	名古屋芸術創造センター(愛知県名古屋市)	052-249-9387	11日(日)	神奈川立青少年センター(神奈川県横浜市)	045-263-4475
3日(土)	岡崎市せきれいホール(愛知県岡崎市)	0564-25-0511	12日(月祝)	グランシップ(静岡県静岡市)	054-289-9000

文楽応援団通信 第27号 2015年7月18日

編集・発行 文楽応援団(年2回発行予定)

連絡先 〒542-0073大阪市中央区日本橋1-12-10

国立文楽劇場 事業推進課

TEL06-6212-5332(直通) FAX06-6212-1202